

## 梅津中学校「学校教育目標」(再掲)

## 自と他を大切にできる豊かな人間性と自律して社会を生き抜く力の育成

## 1. 目指す生徒像

- (1)進路を意識し、粘り強く学ぼうとする生徒
- (2)人権を意識し、つながりを大切にする生徒
- (3)自信を持ち、新たな一歩を踏み出そうとする生徒

## 2. 目指す教職員像

- (1)自己を磨き、学び続ける教職員
- (2)先を見据え、自分の力を出し切る教職員
- (3)共感し、高め合える教職員

## 3. 目指す学校像

- (1)安心・安全で、美しい学校
- (2)「梅津の志」と「愛」が溢れる学校
- (3)地域に信頼され、共に成長する学校。

## 1. 基本的人権を尊重

- (1)すべての教育活動を通して人間尊重の精神を培う。特に「いじめ」は未然防止を徹底する。
- (2)人権感覚の基礎を培い、差別のない明るい社会を築く意欲と実践力を培う。

## 2. 学習指導の充実

- (1)社会を生きる力を身に付けさせるため、全員参加の主体的で対話的な学びを推進する。
- (2)基礎・基本の定着のため、課題のある生徒一人一人への手立てを充実させる。
- (3)聞き方・話し方、授業規律など、小中で一貫した約束を徹底する。
- (4)家庭での学習習慣を確立させ、自主的に学ぶ姿勢を育てる。

## 3. 生徒指導の充実

- (1)社会生活を営むための能力を高め、あらゆる生活の場を通して基本的生活習慣を身につけさせる。
- (2)生徒指導体制を強化し、指導方針を一致させ、問題の早期発見・早期解決に努める。
- (3)保護者との連携を密接に保ち、まず協力関係を作った上で指導にあたる。

- (4)問題行動には、生徒理解を基盤にして、内面的理解を通した指導を推進する。
- (5)「いじめ」は、積極的な教育相談・クラムネの活用等による早期発見と徹底指導を徹底する。
- (6)生徒会活動の活性化を図り、自らの手で平和で落ち着いた規律ある学校づくりを推進する力を培う。
- (7)わかる授業・充実した行事・活発な部活動・生徒会活動などを通し、成功体験と成就感を与える。

#### **4. キャリア教育の充実**

- (1)進路をテーマとした総合学習をキャリア教育に発展させ、社会で必要な能力と生きる力を育成する。
- (2)一人一人の個性や能力を伸長させ、主体的に進路選択ができるような進路指導を推進する。
- (3)今学んでいる内容が、将来の自身の人生や社会に繋がることをイメージさせる。

#### **5. 総合育成支援教育の充実**

- (1)障害のある生徒の社会参加や自立を目指し、個々の可能性を最大限にのばす指導を工夫し推進する。
- (2)障害のある生徒とのふれあいを通して、互いに理解し支えあえるため、交流教育を推進する。
- (3)支援の必要な生徒について、保護者と連携をして確実な合理的な配慮を行う。

#### **6. 健康を増進し、体力向上、安全な生活をする能力の確立**

- (1)自ら進んで健康な心や体の充実に努め、体力と健康面を増進させる能力と態度を育てる。
- (2)安全教育を推進し、校内の安全を確認するとともに事故や怪我の防止に積極的に取り組む。
- (3)あらゆる災害に備える力をつけるとともに、そのための準備の重要性を認識させる。
- (4)家庭・学校における基本的生活習慣の定着を目指した上、食教育を進める。

#### **7. 図書館教育の充実**

- (1)知識を広め、思考力を育て、広い視野と豊かな人間性を養う基盤として、読書活動を推進する。
- (2)聞く・話す・理解する・理解させる等のコミュニケーション能力の向上のため、図書館を活用する。
- (3)司書教諭の活用による図書の充実・整備をすすめ、授業等での図書館の活用を図る。

#### **8. 教育環境の整備**

- (1)清潔で快適な学習・生活環境づくりをめざし、美化活動に対する指導を徹底する。
- (2)校内の施設・設備の有効利用とあわせて、公共物を大切にす態度の育成に努める。
- (3)校内の不良箇所にはすぐに対応するなど、生徒が安全に過ごせるよう、施設・設備の保守に努める。

#### **9. 家庭・地域・小学校との連携**

- (1)学校の教育活動に対する理解を求めるとともに、校下2小学校との一貫教育を推進する。
- (2)学校・家庭・地域のそれぞれの指導のあり方に関する相互理解を深め、連携の強化を図る。
- (3)地域の教育の中心としての役割を認識し、地域の教育力向上を目指す。

#### **10. ICTを活用した教育と情報教育の推進**

- (1)わかる授業・楽しい授業のため、ICT 機器の活用を積極的に進める。
- (2)情報モラル指導を徹底し、SNSの不適切な使用によるトラブルを防ぐ。